

第4回奈良県国際芸術家村構想等検討委員会概要

日時：平成28年6月29日（水） 15：30～17：00

場所：都道府県会館4階 408会議室（東京）

参集者：（委員）佐藤委員長、絹谷副委員長、浮舟委員、松浦委員
（県）荒井知事、松谷副知事、一松総務部長、村田地域振興部長
菅谷樞原考古学研究所所長
（天理市）並河市長

○各委員からの主な意見の概要

<運営に関する事項>

- ・（仮称）国際芸術家村は多岐にわたる取組の構想であるため、今後、全体をマネジメントしていくシステムが重要。全体として、集客をどうするかなどのソフトマネジメントが大きなポイントである。
- ・（仮称）国際芸術家村で何をイメージさせるのか、コンセプトの明確化が重要。

<歴史文化資源の活用>

- ・有形の文化財が中心となっているが、有形と無形の文化財はつながっているもの。有形だけでなく無形の文化財も（仮称）国際芸術家村で紹介し、展開していくことによって、現在と過去、未来をつなぐ取組とすることができるので、そういった視点も検討されたい。
- ・“奈良らしさ”のイメージを踏まえた検討を進めることも重要。

<ソフト面の展開>

- ・文化財の修復現場はこれまであまり公開されてこなかったため、携わっている人々の意識を変えていくことも必要。選定保存技術保存団体などがソフトを公開することは重要。
- ・これら検討委員会の資料にあるような取組を体系的に実施することが必要。（仮称）国際芸術家村が完成するまでの間に必要な取組を具体的な計画として確立することが必要。ハードが完成する前にソフト面で出来ることから実績をあげてしっかり取り組まれたい。

<交通アクセス>

- ・（仮称）国際芸術家村へのアクセスは重要。リピーターとして来ていただくためには関連施設などとのネットワーク化も重要な視点。
- ・交通の便はしっかりと考えないといけない。当該拠点にいいものをつくってもアクセスが良くないと人が訪れない。

<その他>

- ・（仮称）国際芸術家村には若者にも来てもらう魅力が必要。文化財の保存修復や食なども大事であるが、現代の若者が注目するように工夫することが必要。自転車道も若者が気持ちよく走れる環境を整えることが必要。
- ・文化財の修復に携わる者が民間企業とタイアップして小さな木の模型や硯を作るといった新たな産業興しをするなど、互いに利益が出る仕組みを整えることも検討視点としては必要。

○天理市長からのコメント

- ・（仮称）国際芸術家村へのアクセスを充実させるため、自転車もあわせて天理駅等からのアクセス改善を検討していきたい。
- ・来訪者に気軽に来てもらって、周遊しやすく、体験もできるものをこれから構築していきたい。

○知事総括

- ・全体のマネジメントができれば継続的な取り組みが可能。また、継続的な取組をするためには、多少の収益を得る取組も必要。
- ・宮大工や墨などともともと奈良が源流。素材は奈良にあるので、源流となっているものを発掘して来訪者などに見ていただいて技術なども継承していきたい。
- ・オリンピックの開催などをきっかけに、インバウンドによって地方にも外国人が訪れている。外国人の方々にも興味を持ってもらうためには、日本の生活文化を体感してもらい、日本の厚みをしっかりと知ってもらうことが必要。
- ・当該拠点では、奈良の目に見えない文化の力を活かして、人々に力を与える持続性のある取組を進めたい。
- ・県ではこれまでも大芸術祭の取組などを行っているが、無形文化財の発表の場として当該拠点を活用し、文化芸術活動の拠点、賑わいの拠点づくりを行いたい。

○その他

次回以降も候補地である天理市長の出席について委員会として合意。

以 上